

日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月27日(土)

活動隊員：寺田英子、花房八智代

1. 活動日時

2024年1月27日(土) 0:00~24:00(交代制で勤務制)

2. 活動場所

珠洲市立 大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

避難所使用者数46人(内訳:男性22名、女性22名、65歳以上23名、幼児童5名)

自宅避難29世帯74人

3. 被害状況(内閣府:1月26日9:00現在)

人的被害:石川県死者223人、行方不明者19人

4. 天候

雨 最高気温 6℃ 最低気温 1℃

5. 活動の実際

2:30 丸岡IC出発

6:50 大谷小中学校避難所到着

避難所リーダーに挨拶

7:00 看護師挨拶 ホットタオル配布

8:00 状態観察

8:30 申し送り 経過観察者

- ・発熱要観察者なし
- ・体育館に下肢腫脹のある男性が2名いる。普段は動いている。
- ・朝方咳込む男性がいた。夜中発汗著名にあり、楽になった。
- ・蜂窩織炎にて隔日で洗浄している人がいる。等

9:40 体操・換気・マスク交換

11:00 校内ラウンド 挨拶

- ・二次避難の案内補足
- ・1、5次避難者2名退所 見送り
- ・1、5次避難についての思いの傾聴

「女性80歳代(4点杖歩行):一人なので知り合いもなく過ごしている。一人はさみしい。2次避難は完全に一人だけど、1、5次避難ならよく似た人がいて友達もできるかもしれないと思って決めました。」

- ・玄関で外スリッパに履き替え、再度体育館内で内スリッパに履き替える2重にスリッパを履き替える流れであった。スリッパ履き替え時、ふらつく女性がいた。

12:00 食事 配膳確認

- ・体育館内の方はベッドで食事を摂取していた。

12:30 室崎先生(NHKと共に)視察案内

- ・大谷小中学校避難所と日本災害看護学会先遣隊常駐の経緯や現在の課題(1,5次、2次避

難の移行期、小中学校の再開による避難所内の集約化、入浴希望者、) などについて説明する。

14:00 ・右下肢蜂窩織炎者の洗浄処置

・入浴サービス 5 名案内 (社協送迎あり)

14:30 換気・ラジオ体操・マスク交換案内

15:00 避難所周辺の視察

個別対応 咽頭不快 1 名 発熱なし 含嗽励行 葛根湯 2 包 (2 回分) 渡す。

16:00 看護師室掃除

17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部ミーティング (音声不良にて、詳細不明)

18:00 夕食 配膳

・正面玄関前に設置された仮設トイレ 2 基の再開のアナウンスあり。1 基は温水洗浄あり。男女の区別なし。

・今までの内トイレは閉鎖となり、多目的室トイレのみ使用可能となる。

19:00 看護師ミーティング (要観察者の振り返り)

20:00 避難所本部ミーティング

・自衛隊の物資供給が 1 回/2 日になる。

・ウォーターシャワー 1 台が設置された (体育館の外)。今後、運用方法を検討する予定。

・手洗いスタンド (循環型) 2 基設置。

・仮設トイレ 2 基のし尿汲み取り作業が終了し、使用可能となった。

・下肢の浮腫が強い避難者が 3 名見受けられるため、本部に DVT のスクリーニングを要請する等

20:30 巡回 教室

・認知症のある 80 代女性：おむつ交換

・50 歳代女性：歯のかぶせ物が取れて歯科にかかりたいが、歯科医がいなくなってしまった。珠洲市に勤務している。歯磨きは心がけている。

・75 歳代男性：本日自衛隊の入浴にいかれる。時よりせき込みあり。

・ほとんどの避難者が 20:30 には布団に入り就寝の準備をしていた。

21:00 消灯 見守り

## 6. 考察

### 【健康面】

前任看護師の申し送りにより、避難者全体の健康状態がほぼ把握されていると感じられた。それは、ホットタオルを渡す時などに声をかけ目と目を合わせ話しながら、健康状態の確認を行う等の個別の看護が提供できていたためと考える。引き続きこのような個々に対する声かけや観察を通して状態を確認し、その内容をスタッフ間で情報共有を図り継続した支援が必要と考える。

下肢腫脹が認められる方の歩行はできているが、DVT のスクリーニング及び医師診察が必要である。次回の医師診察は 31 日の水曜日にて、避難所本部ミーティングで報告し珠洲市保健医療福祉調整本部にスクリーニングの相談をすることとした。また、口腔ケアの面ではセルフケアされていても水不足という面では、平時よりも行き届かず口内環境が悪化している可能性がある。歯科巡回チームの介入が望まれる。

65歳以上が半数以上いる体育館内では、トイレ介助者は不在であったが、足腰に力が入らないような方が大半でありスリッパ履き替え時によろめく姿も見受けられた。本日より、内のトイレが閉鎖され（多目的トイレのみ可）玄関外に設置してある仮設トイレを使用することになったが、段差もあるため、さらに転倒のリスクが高まっている。スリッパ履き替え動作に注意を払うと共に履き替えのタイミングを検討する必要がある。

#### 【感染予防】

現在、発熱者部屋利用者は0名であるが、数名が時々咳こみあり、発熱症状はないが呼吸器疾患など念頭においた経過観察を要する。手洗いスタンド（循環型）2基の設置があったが、慣れないため使用しないことも予測される。声をかけながら石鹸での手洗いの励行を促す必要がある。

#### 【環境調整】

発災より1カ月が経過し、避難者数が400名から40名台となり、段ボールベッドは2m以上離れた間隔に設置してあり体育館全体が整然と変化していた。また、週末でもあり児童の姿は家族と宿泊しているため見られなかった。1月29日には2次避難で23名が退所する予定であり日々著しい環境の変化がある。人数が減少する中でも残っている方のニーズに即した環境調整が必要である。優先的には、体育館内での飲食スペース設置か、歩行を促すためにも80m位先にある食堂への移動の検討とキッズスペース（遊びと勉強）の検討が課題と考える。

## 7. 参考写真



避難所体育館の様子



ラジオ体操